

私の住んでいる朝日町は、朝明川と員弁川に挟まれた所に位置する。そのため町外へ出かける時は、どちらかの川の橋を通っている。橋からの見慣れた景色の中で、いつからか大きな重機や何台ものトラックを目にするようになった。両方の川で、同じような工事をしている。「川の工事が多いけれど、何をしているのかな。」橋の上を運転中の父に聞いてみた。「川辺を削っているみたいだから、洪水対策しているんだね。」と教えてくれた。そして私は、数年前に豪雨で員弁川の支流が氾濫したとニュースでみたことを思い出した。その氾濫があった次の日に員弁川の橋を通ったのだが、川の水位がとても高くて、茶色く濁った水が勢いよく流れているのを見て、とても恐ろしかった記憶がある。いつもの穏やかな川の姿とは全くの別物だった。

家へ帰り、川の工事のことが気になったので「三重県」のWEBサイトを調べ、「河川整備計画」を閲覧した。朝明川・員弁川を含む県内の二級河川は三重県が管理している。それぞれの河川の過去の被害状況、危険区域の特定、工事概要、生態系の保全等について書かれていた。やはり、私が見た工事は氾濫をできるだけ防ぐためのものだった。改めて状況を知って私はとても安心したし、生物の保全も考えられていることに驚いた。そして河川工事が私の住んでいる地域だけでなく県内全体に広がっていることに嬉しく思った。同時に、とても大規模な工事をいくつも行う費用は相当な額だろうとも思った。

中学校の社会の授業で、「ハロー・タックス」という資料をもらった。三重県の財政のページを開いた。歳出の内訳をみると、全体の約10%は土木費に充てられていた。土木費とは、道路・橋・河川や公園を整備するための費用と載っているため、ここに河川工事も含まれるのが分かる。そしてその財源はどこから来るのか。歳入の内訳をみると、県税、地方消費税清算金、国からの交付金が約80%を占めていた。国や県へ納められた大切な税金を使って河川工事が行われていることが分かった。地域の人が安心して生活ができるため、命を守るために税金が使われていて、素晴らしいと思った。

線状降水帯や台風の影響による川の氾濫が、全国のどこかで毎年のようにおきていて、人命にかかわる大きな被害をもたらしている。家屋が倒壊したり農作物が収穫できなくなったりして、本当に悲しく被害に遭われた方のことと思うと胸が痛い。国民（県民）が今後このような被害を受けないように、命を守るように、全国で河川の調査や工事を進める必要がある。そのため納税による資金の確保が必須だ。納税の大切さ、重要性を改めて考えることができた。私が納税する立場になった時、そのことを認識して納税の責任を果たしていきたい。